

投資開発事業



事業概要

投資開発事業では、不動産事業の強化および新事業への参入により、事業領域の拡大を図っています。不動産事業では、賃貸事業、開発事業のほか、再開発・土地区画整理事業に取り組んでいます。新事業では、再生可能エネルギー発電などのエネルギー事業、PPP/コンセッションのほか、地方創生に貢献する事業など社会の持続的な発展に向けた取り組みや、社会の需要を先取りした新たなビジネス機会の発掘を目指しています。

不動産事業や新事業を通して総合インフラストラクチャー企業を目指し、環境・社会の課題解決に貢献するさまざまな事業への投資を積極的に行っていきます。

主な事業



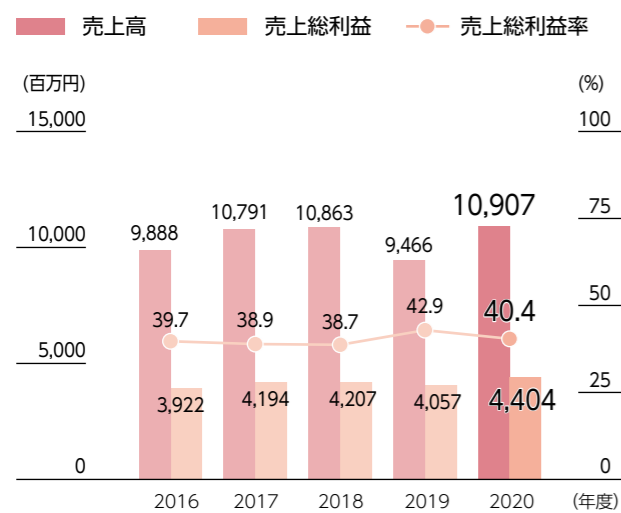
再開発事業: 新千歳2・3地区再開発事業(完成予想パース)(千歳市中央区) | 再開発事業: 多治見駅南地区第一種市街地再開発事業(完成予想パース)(岐阜県多治見市) | PPP/PFI事業: 武豊町屋内温水プール施設整備・管理運営事業(完成予想パース)(愛知県武豊町)



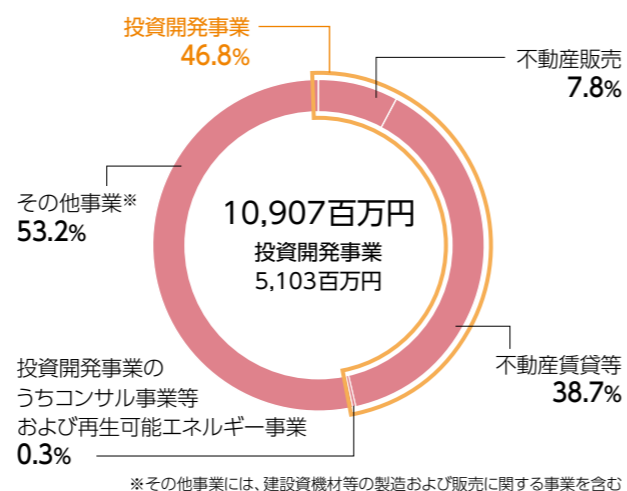
再生可能エネルギー事業: 石狩バイオマス発電事業(北海道石狩湾新港地域) | BtoC事業: コワーキングスペース「あべのトラス」(大阪市阿倍野区)

投資開発事業およびその他事業の業績(連結)

売上高・売上総利益(率)



売上高内訳(2020年度)



投資開発事業本部長 原田 治

投資開発事業本部長メッセージ

投資開発事業では、社会のニーズの変化を見据えた事業を展開し、社会の持続的な発展へ貢献する総合インフラストラクチャー企業を目指して、社会資本の整備、維持に関わる取り組みを積極的に推進しています。

「2030年に向けたビジョン」の実現に向けて、持続的な成長を支える事業領域の拡大および事業環境の変化を見据えた収益基盤の多様化を実践するため、迅速かつ確かな投資判断で経営資源を集中的に投入することにより、不動産事業の強化とともに建設事業以外の新事業領域へ参入していく方針です。

「中期経営計画(2019~2021年度)」では、不動産事業と新事業において積極的に投資を進める計画で、不動産事業においては、賃貸事業における収益基盤をより強固なものとするため、優良なアセットへの投資、保有資産の最適管理によって資産価値の向上を図り、収益を堅持するとともに、住宅・オフィスなどの新規不動産開発およびリノベーションなどの既存ストックの有効活用を進めるほか、市街地再開発事業などにも注力していきます。

新事業においては、変化し続ける社会の需要を的確に捉えた事業展開を図るため、再生可能エネルギー関連事業、公共施設の運営事業のほか、農業、水産業など第一次産業における新たな事業展開など、環境、社会課題に対するソリューションへ注力するとともに、産学連携やベンチャー企業との協業による新たなビジネスの開発など、イノベーションの促進にも取り組んでいきます。

投資開発事業の主な取り組み

不動産開発

- 不動産開発事業
- 不動産賃貸事業
- 市街地再開発事業、土地区画整理事業

新事業開発

- PPP/PFI、コンセッションなどの公共施設運営事業
- 再生可能エネルギー事業
(バイオマス発電事業、バイオガス発電事業、小水力発電事業など)
- BtoC事業(coworking space 運営事業など)
- 農水産業(夏秋いちごの栽培・出荷・販売事業など)

TOPIC

農業を通じた地方創生への取り組み [夏秋いちご栽培・出荷・販売事業]

2020年1月に小諸倉庫株式会社と「株式会社軽井沢いちご工房」を設立し、長野県軽井沢町にて、夏秋いちごの栽培・出荷・販売事業を開始しました。

いちごは暑さに弱く、冬春期に収穫・出荷が集中します。国産いちごの出荷量が極端に少なく、輸入品や冷凍品が主に流通する夏秋期に、新鮮で良質な国産いちごを安定的にお客さまへお届けしたいと考え、本事業に取り組むことにしました。

本事業を通じて地域における雇用の創出や地域ブランドの確立などによる地方創生への貢献、さらには耕作放棄地の解消など農業分野における課題解決に努め、持続可能な社会の実現を目指します。

株式会社軽井沢いちご工房が販売する夏秋いちご“サマールーージュ”

